

# 二次医療圏外からの延べ外来患者率

## ●説明

より遠方から来られる患者さんをどの程度診療しているかを示す指標です。患者さんの在住する二次医療圏で対応できない希少疾患に対する特殊治療の貢献度も示します。

各年度1年間の自施設の当該二次医療圏外に居住する外来患者さんの延べ数を外来患者延べ数で除した割合です。二次医療圏とは、医療法第30条の3第2項第1号及び第2号により規定された区域を指します。

「外来患者」数は延べ数としますが、その定義は、初再診料を算定した患者さんとし、併科受診の場合で初再診料が算定できない場合も含みます。入院中の他科外来受診は除きます。検査・画像診断目的の受診は、同日に再診療を算定しない場合に限り1人とします。住所の不明な患者さんは二次医療圏内とします。

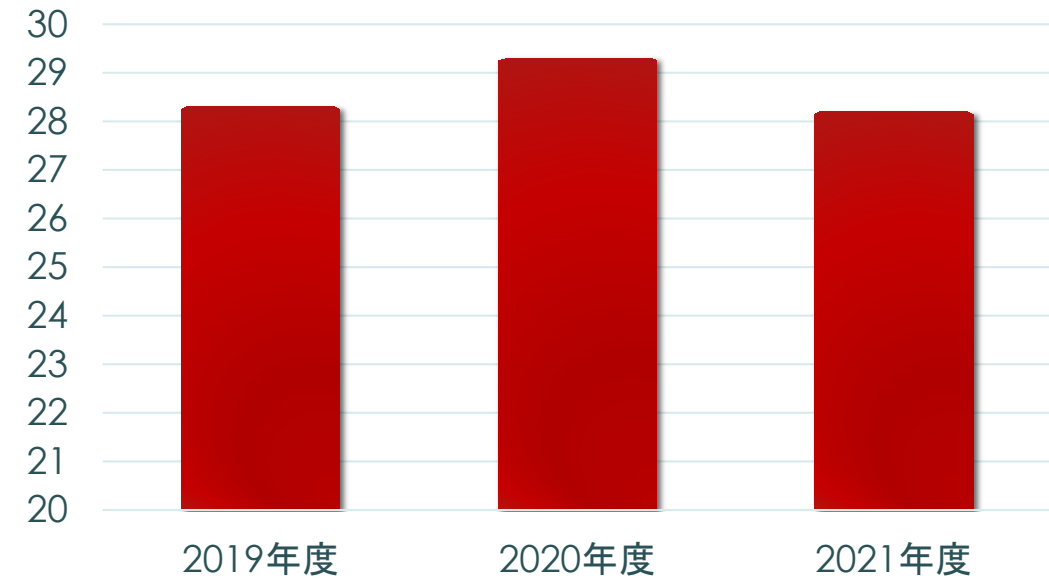
## ●計算式

$$QI = \frac{\text{二次医療圏外からの外来患者延べ数}}{\text{外来患者延べ数}} \times 100$$

## ●目標

県内唯一の国立大学病院として、神戸圏域（二次医療圏）に限らず広く県内からも患者さんを受け入れる体制強化を図っています。神戸圏域は全県的機能を持つ高度専門医療や先進医療機関が集積しており、特に高度急性期病床は、隣接する圏域において不足することが予想されます。神戸圏域さらには他圏域を含めた重症患者さんに対する高度医療の実施を目指しています。

## ●実績 (%)



## ●評価

令和2年度国立大学附属病院 病院機能指標：  
 平均値38.2、最小値16.3、中央値32.5、最大値88.7です。